

おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN



第9回 全国お手玉遊び大会



「熊本おじやめの会ありあけ」が初優勝

▲ユーモラスな表情で
真剣に対戦する小学生



▲初優勝の「熊本おじやめの会
ありあけ」チームのみなさん



▲むかしを思い浮かべながら…

特集

I
第九回全国お手玉
遊び大会

II
US-JAPAN
EXPO2000

2-3

4-5

●文部大臣感謝状を受賞 … 5

●各種の大会に参加 …… 6

野外伝承遊び国際大会

神戸まつり・

ちびっこワールド

全国生涯学習

フェスティバル

●会の歩み(12年後半) … 7

●サンディエゴ・オテダマ・

カイ発足 …… 7

●第10回大会は9月9日 … 8

●真鍋博顧問ご逝去 …… 8

●お手玉遊び競技・

審判規則 …… 8

●次号の予告 …… 8

優勝旗は初めて九州に渡る

第九回全国お手玉遊び大会

26都府県とアメリカから八五〇人が参加

第9回全国お手玉遊び大会は、「めくもりを届けたい、手から心へ。」をスローガンに、大会実行委員会と日本のお手玉の会の共同主催で、平成12年8月27日（日）、リーガロイヤルホテル新居浜で開催しました。大会には、福島県から熊本県までの26都府県と、アメリカのサンディエゴ市から、あわせて850人（団体戦：375人、個人戦：475人）が競技に参加し、観衆の方々は約8,000人を数えました。

大会の開催に当たりましては、新たに自治体、愛媛県レフリー・シヨン協会のご後援をいただきました。

わらべうたで幕をあける

オープニングは、新居浜少年少女合唱団が、「浴衣を着てお手玉をゆりながらの一わらべうたメドレー」で、会場から大きな拍手が送られました。つづ



新居浜少年少女合唱団のわらべ歌



真剣な表情の小学生の部団体戦

いてのアトラクションは、津軽三味線の全国大会で準優勝の高崎裕士（熊本）さんが、見事なパチさばきで、素晴らしい演奏を聞かせてくれました。

開会式では、昨年優勝の「ならまちわらべうたフェスタ」チーム（浮田日

シ子さん、津田之恵さん、田中玉枝さん、中川孝子さん）から優勝旗が返還され、大会長のあいさつ、新居浜市長の歓迎の言葉、加賀守行愛媛県知事からの祝辞（高須賀功四参事長が代読）がありました。

祝電の披露では、ロサンゼルス在住の日本のお手玉の会の杉葉子顧問から、「日本のお手玉の会の皆様。全国からお集まりの皆様。大会に参りで行きたいのですが、多忙を極め、参加できず残念です。お手玉遊びによって、全国からお集まりの皆様が、「心の交流の輪」が広がりますことを、ロサンゼルスのお手玉の会よりお祈りしております」とのメッセージが紹介されました。

競技を前に、坪井利一郎審判長から、日本のお手玉の会が新たに定めた「お手玉遊び競技・審判規則」に基づいた競技説明が行われました。つづいての選手宣誓は、「ならまちわらべうたフェスタ」チームを代表して中学生コンビの湯川沙矢ちゃんと、吉村唯恵ちゃんから、力強く暖かい言葉で行われました。

個人戦は各種目とも接戦

個人戦は、どの種目とも大接戦となりました。決着のつかない優勝戦では、新しい規則に慣れて、頭に2個、3個、4個のお手玉を乗せた状態で競技を行ったり、手の甲でゆめるなどの方法が採用されました。

個人戦の上位入賞者は、次ぎのとおり



ますます高難度になる一般の部個人戦

- 【個人戦・小学生の部】
 - 片手2個①菅 光新居浜
 - ②湯本千秋（徳島）
 - ③玉藤真吉（新居浜）
 - 両手3個①湯本千秋
 - ②高橋康文（新居浜）
 - ③菅原芳実（同）
- 【個人戦・一般の部】
 - 片手2個①今村シメ子（新居浜）
 - ②吉村唯恵（奈良）
 - ③湯川沙矢（同）
 - 両手3個①杉村美智子（大牟田）
 - ②今村シメ子
 - ③中川真友子（奈良）
- ジャグリング
 - ①久門恵子（新居浜）
 - ②小田原充宏（東京）
 - ③秋月久空（新居浜）
 - ④山内サヨ子（新居浜）
 - ⑤小田原充宏

- 【団体戦・小学生の部】
 - 優勝①ドラゴンサンダース（伊予三島市）
 - 敢闘賞①あそび絵トムソーヤ（新居浜）
- 【団体戦・一般の部】
 - 優勝①熊本おじやめの会ありあけ（熊本）
 - 敢闘賞①勝浦お手玉の会（徳島）
 - 敢闘賞②フネッピー（みまね）（熊本）
 - 敢闘賞③持物子（いものこ）（四参）

団体戦は熊本が初の優勝

団体戦は、「ならまちわらべうたフェスタ」チームが、1年連続の優勝を勝ち取るか、優勝をはむチームが現われるのが注目の点でした。

ならまちは、順当に勝ち進みましたが、準々決勝戦で熊本のチームに敗れ、決勝はなりませんでした。優勝戦は、勝浦お手玉の会A（徳島）と熊本おじやめの会ありあけ（熊本）との間で行われました。接戦の末、熊本が初優勝を飾りました。

団体戦の上位入賞チームは、次ぎのとおりです。

福島や山口などが初参加

今大会に、初めて福島、山口両県から団体戦に出場したほか、岐阜、茨城、埼玉、静岡の各県から個人戦への初参加があり、二六都府県からの参加となりました。ほかに、アメリカのサンディエゴ市からの参加もありました。

このたびの参加者の範囲は、群馬、群馬、茨城、千葉、東京、埼玉、神奈川、静岡、岐阜、大阪、京都、滋賀、奈良、兵庫、岡山、広島、鳥取、高知、山口、福岡、熊本、宮崎、鹿児島、高知、香川、愛媛の各都府県と、アメリカのサンディエゴ市でした。

未来博や国際大会関連も

参加者には、福島の未来博、東京の国際大会などの関係者もいました。福島県では、来年「うつくしま未来博」が開催されます。博覧会の中でお手玉遊びを取り上げることから、県民参加ディレクターの佐藤英吉氏が、団体戦に出場する二チームの選手と一緒に参加しました。



熊本のみなさんによる「おてもサンバ」

また、今年の十一月五日、東京都で「第2回野外伝承遊び国際大会」が行われます。日本を代表する遊びとして、日本のお手玉の会が参加することもあって、大会運営委員会副委員長の中山順子様も参加しました。

大分市の神屋さんを表彰

今大会の中で、大分市賀東園分に住む神屋クニユキさん(九一歳)に日本のお手玉の会から表彰状と、「お手玉大使」の称号を贈りました。

神屋さんは、明治四十一年九月十三日生まれですが、一六年前お手玉を作りつづけられ、大分市内の公立幼稚園のすべてにお手玉を贈り、阪神淡路大震災の時には、神戸市にお手玉を贈り、被災した人々の心をやしました。

神屋さんは、お手玉の贈り先と個数を大規模に記録していて、その数は約三三、〇〇〇個になります。「喜んでいられるみんなの顔があるからやめられへん」といって、今もお元気、お手玉づくりを続けています。



好評だったお手玉遊園地

この表彰について、神屋さんは「大変ありがたいことで、うれしく思っている。これを励みに、今後ともお手玉づくりを続けていきます」。



高崎さんの津軽三味線

を作り続け、世の中のお役に立ちたい」とお礼に、「二〇〇個のお手玉を贈りたい」と話しています。

なお、神屋さんからいただいたお手玉は、愛媛県内の幼稚園にプレゼントしました。

いろいろな遊び「コーナー」

遊びコーナーでは、折り紙、竹芸、まりつき、コマ回し、和紙人形づくりなどの遊びを指導し、人気を博しました。

折り紙では、新居浜市の伊藤雅治様が、昆虫、動物などオリジナルの折り紙を指導しました。今回は4年目とあって、一日中、親子連れでテーブルが埋まり、熱心に作品づくりに挑戦していました。

竹芸とまりつきは、進賢県の中中邦子様と、群馬県の殿塚千砂様が指導にあたりました。

コマ回しは、新居浜市の角田武博様が指導に当たりましたが、肥後ちゃん(けごま)の桃太郎さんや、りゅうごまの鈴木さんも加わって、楽しいコーナーとなりました。

和紙人形づくりは、新居浜市の和紙人形作家、大西妙子様の作品を展示した中で、作品の材料や作り方などについて、解説や説明、指導が行われました。

お手玉遊園地にもきわう

心身に障害があるための競技大会には参加できない人たちが、自由にお手玉遊びを楽しめる「お手玉遊園地」は、ことしも、おもちゃ図書館さしやポッポの管轄による企画、運営で行われました。楽しい手づくりおもちゃが豊富に展示されていて、訪問者は、手にとって眺めたり、解体したり、組み立てたり、自由に楽しんでいました。

展示即売コーナーは、写真絵本「お手玉」やお手玉グッズのほか、新居浜市、松山市、今治市などから持ち込まれた手作り作品、ちりめん細工などの地元の物産が登場し、参加者の人気を集めました。

会場内に設けられたお茶席も、お手玉遊び競技や観戦の合間に、「らよっ」と一憩」と訪れるお客でにぎわいました。

会場内には、お茶席も、お手玉遊び競技や観戦の合間に、「らよっ」と一憩」と訪れるお客でにぎわいました。

大会の運営に150人が

今大会の実行委員会への参加は33団体(企業を含む)で、当日の運営委員は150人の方々でした。参加団体は、次ぎのとおりです。

新居浜青年会議所、新居浜ペンチャークラブ、おもちゃ図書館さしやポッポ、国際ソロプロミス特新居浜、国際ソロプロミス特新居浜みなみ、新居浜市民館連絡協議会、新居浜市役所、にはま日本語の会、新居浜商業士会、愛媛SSGクラブ新居浜支部、住友生命保険相互会社、生活協同組合アイコー、四国電力株式会社新居浜支店、西原町郵便局、新居浜市連合婦人会、新居浜市地域ケアセンター連絡協議会、全国まちづくり研究会新居浜支部、あそび塾トムソーヤ、新居浜アメニティ倶楽部、日本のお手玉の会、ほか

前夜祭もにぎやかに

前夜祭は、八月二十六日(土)一八時三〇分、リーガアクアガーデンで行われ、県外出場者を中心に新居浜市民など一四〇人が参加しました。



桃太郎さんの肥後ちゃんがけごま

会は、日本のお手玉の会から、あいさつと経過報告の後、全国から参加した各支部や団体、個人から、各地のお手玉の普及活動、大会に臨む気持ちなどが発表されました。福島県チームは、横断幕などをもって来年の未来博のPRをしました。

続いて、熊本チームが浴衣に着替えてエモラスに「おてもサンバ」を踊り、会場を盛り上げました。津軽三味線の高崎裕士さんの演奏、肥後ちゃん(けごま)の桃太郎・ヒサ子さんによる曲技、東京の小田原光宏さんがお手玉の妙技を演じるなどして、拍手喝采を浴びました。

参加者は、大会を前にして、各地のお手玉遊びや、新しい技を紹介したりしながら、笑顔の交流を広げながら、楽しいひとときを過ごしました。

三度目のロス遠征で念願の支部誕生へ

現地のラジオ番組（RPJ）で取り上げられる サンディエゴ・オタデマ・カイの暖かいご協力も

日本のお手玉の会は、平成十二年十一月十七日から十九日までの三日間、トータル・プランニング・インターナショナル社（TPJ）の主催で、アメリカのロスサンセルス市で行われた「第二回US-JAPAN EXPO2000」に参加しました。日本のお手玉の会としては三年連続の参加で、これが八度目の海外遠征となります。当会からは、本部および大牟田市、水俣市などから六人が参加しました。

「ジャパン・エキスポ」は、日本の古きよき伝統文化を、アメリカ人やアメリカに住む日本人に紹介するとともに、日本企業の製品の紹介や、各地の物産を展示・販売するイベントです。

今年、ニューヨークに住む「和の鉄人」森本正治さんの料理の実演や、ちりめん糊工、水引工芸など女江戸職人集の参加があり、会場のコンベンションセンターには、約三万人の入場者が訪れ、大いににぎわいました。

日本のお手玉の会のコーナーは、世界と日本のお手玉展示、お手玉作り教室、お手玉遊び教室、お手



自作のお手玉に感動する若者たち



サンディエゴ・オタデマ・カイの皆さん



熱心にお手玉を作る女性



暖かい心尽くしの差し入れ



日本から参加した6人の皆さん

玉グッズの販売の四つゾーンに分けて入場者を迎えました。三回目というところもあって、開場から終了まで、お客の切れ目がなく、終了、大ににぎわいました。

これに対応する今回の日本からの参加者は、十一月末からのシドニー遠征を控えていたため、昨年、一昨年の二〇人に比べ六人という少人数でした。

そこで、サンディエゴ・オタデマ・カイから七人の皆様の暖かい応援をいただきました。また、学生さんのボランティアなどのご協力により、大忙しなご対応することができました。

お嬢さんのお手玉 づくりに感動の父親

お手玉展示には、大人から子どもまで関心が高く、展示台とわかっていながらも、そのかわいさや、珍しさから「ハウマツチ？」とたずねられる人が多く、会員を困らせました。

作り方教室は、例年どおりたくさんの方が詰めかけ、作業台の席が空くことがなく、一日中、人で埋まりました。多いときは、三重、三重に作業台を取り囲み、立ったままでお手玉を作る状態のときもありました。指導する会員の、指

先がしげれるほどの盛況ぶりでした。

お子さんが、お手玉作りに挑戦している姿を、最後まで立って見ていたお父さんがいました。

そのお父さんが、お子さんのお手玉の完成と一緒に喜び、私どもに深々と頭を下げ「今日は感動しました。娘が針を持った姿を初めてみました。こんなことができてとは思いませんでした。ありがとうございます。ありがとうございました」とお礼をいってくださった。私どもも感動しました。

遊び教室には、子どもたちに混じって、たくさんのお大人も集まりました。自分で作ったお手玉で、早速、練習する子どもたちもいて、にこやかな楽しい交流ができました。

また、「昨年からの練習の成果を見てください」と訪ねてきた、キャロライン・タップちゃん、ケンジ・コバヤシくんが、上達ぶりを笑顔で披露してくれました。グッズの販売では、子どもたちにはばら売りのお手玉が人気でし

たし、大人にはお手玉キットの布を買い求めるひとが多くみられました。

今年の特徴は、日本語学校の先生やアメリカの小中学校の先生など、教育関係の方々の参加が多く、学校教育への採用を視野に入れた体験や質問が多かったことがあげられます。

ちよんがけごまで 友情の輪が広がる

デモンストラーションの時間には、メンバーの肥後ちよんがけごまの名人・坂下一郎さんとヒサコさんが、こまの芸を披露しながら、観客の協力を得て、要所で横断幕を引き出して見せました。横断幕には、日本語と英語で次のように書かれていました。

「手から心へ、ぬくもりを届ける『Delivering Warmth from Hand to Heart』と、『アメリカと日本を結ぶ、お手玉の輪・笑顔の輪』The Orihama Circle of Friendship: Linking Japan & America with 'The Warmth of Orihama」

長いほうの横断幕は、一四・五メートルもあり、たくさんのお客様に持っていたくことになりました。そして、会場の皆さんで大きな声で読んでいただきました。会場からは、ちよんがけごまの妙技と横断幕の言葉に、大きな拍手が沸きあがり、友情の輪が広がりました。

顧問の杉様や坂井様や ファンズの訪問

会場には海外在住顧問の、杉様（ロサンゼルス）と坂井弘孝様や、南カリフォルニア日系商工会議所会頭の亀井俊彦様、カルチャラル・ニュース発行者の東繁春様など、たくさんの方々がお訪ねてくれました。

また、ロサンゼルス支部につきましては、サンタモニカで経営コンサルタントをしておられる三澤拓嗣様がお世話いただくことになりました。今後は、これまで支部立ち上げにご尽力いただいた本原静玉様、ケイコ・タツブ様などともご相談いただきながら、組織づくりを進めていただくことになりそうです。

東繁春様は、現地のラジオ放送「ラジオ・パシフィック・ジャパン（RPJ）」の「さわやかサンデー」という番組を担当しておられ、十一月十九日に、お手玉の普及活動を取り上げてくれました。



幾重にもなり立ってお手玉を繞る盛況

「日本から、日本のお手玉の会というグループが、ロスのエキスに参加しています。陽世伝承のお手玉遊びを、日本国内だけではなく、海外にも広めようとしています。私も、お手玉を買ってききました。世代交流にも役立つ、楽しい遊びです。……」と紹介してくださいました。

焼きいもやおにぎり などの差し入れ

昨年もそうでしたが、今年も暖かい差し入れがありました。ロスの市内のファンや、新しい支部のサンディエゴ・オテグマカイなど、六人の方から届いた、ほかほかの焼きいも、炊きこみご飯、梅干や昆布の佃煮のはいったおにぎり、クッキー、ケーキ、漬け物など、心のこもった手作りの差し入れに、メンバーは大喜びでした。和菓子もありました。

心温まるお料理の数かず舌つづみを打ちながら、しばしの間、アメリカにいることを忘れて、心



日本とアメリカを結ぶお手玉の輪

と体をいやすことができました。三度目のエキス泊は、多くのの方々を支えられて、たくさんの方にお手玉のよきをご体験いただき、ロス支部の立ち上げに確かな基盤ができたほか、新しい参加の方法、ラジオ放送など、大きな成果を収めることができました。

ロス市内や サンフランシスコの観光

エキス泊のほか、ハリウッド、ロデオドライブ、ピバリーヒルズなどロサンゼルス市内観光も楽しみました。エキス泊の後は、サンフランシスコに移動して、フィッシャーマン・ウィークのビア祭り、ゴールデンゲイトブリッジなど市内観光をし、翌日は、まる一日かけてヨセミテ国立公園に出かけました。

シリコン・バレーやゴールド・ラッシュで繁栄した街を巡りながら、巨大な岩と深い森林に包まれた「神々が作った芸術品」といわれる、ヨセミテ国立公園を観光しました。

〈今回お世話になった方々〉
△日本からの参加者 杉村治男、杉村美智子（大牟田市）、坂下一郎、池田ヒサ子（水俣市）、本部二名、△サンディエゴ・オテグマカイ 坂井恭子、中島寿子、マクダニエール・ノリコ、永峰スミ子、ミキ、ペドリー、スマ子、ミラー、ランブキン敏子△ボランティアー イズミ・コーノ△ロサンゼルス市 酒井優子（敬称略）

文部大臣から感謝状を受ける

生涯学習フェスティバルへの協力で

日本のお手玉の会は、全国生涯学習フェスティバルに協力した行いで、十一月一日、文部大臣感謝状を受賞しました。

感謝状交付式は、第一二回全国生涯学習フェスティバル「まなびビア三重2000」の総合同会式があった、三重県津市の三重県総合文化センターで、十一月一日に行われました。

このたびの感謝状は、文部省が主催する全国生涯学習フェスティバルに多大の支援、協力を行った団体に、文部大臣から贈られたものです。日本のお手玉の会は、第

一〇回「まなびビア兵庫」、第一回「まなびビア広島」、そして今回の「まなびビア三重」と三年連続して、「世界と日本のお手玉を見て、作って、遊ばせよう」のテーマで、フェスティバルに参加し、多くの成果を収めたことが評価されたものです。

このたびの受賞者は、キリンビール、東芝、日立製作所、松下電機産業、三菱電機、本田技研工業、ヤンマー農機、東急観光、日本旅行、日本放送協会、日本レクリエーション協会、産業能率大学、学習研究社など、ほとんどが大手企業、社団法人、財団法人、大学といった著名な団体ばかりでした。

こうした優良団体に交じって、日本のお手玉の会が受賞対象に選ばれた意義は大きく、大いに誇り得ることといえます。

これも、日本のお手玉の会の会員の皆様、支部のみならずのご協力と、日ごろからご支援、ご協力をいただいているたくさんの方々の企業、団体、ファンの皆様のご協力の賜物であります。ここに報告するとともに、厚くお礼を申しあげます。



感謝状

日本のお手玉の会
貴団体の生涯学習活動が、全国生涯学習フェスティバルに協力したことで、文部大臣から感謝状を受賞しました。このたびの受賞は、貴団体の活動が、全国生涯学習フェスティバルに多大の支援、協力を行ったことによるものと見られます。このたびの受賞は、貴団体の活動が、全国生涯学習フェスティバルに多大の支援、協力を行ったことによるものと見られます。

22か国の野外伝承遊び大集合

輝く太陽の下でお手玉遊びの競技大会も

第2回野外伝承遊び国際大会は、社団法人青少年交友協会・野外文化研究所の主催で、「遊びから学ぶ世界の文化」をテーマに、十一月五日、東京渋谷の代々木公園サッカー場で行われました。今回は、昨年の十三か国より九か国多い二十二か国が参加しました。

日本のお手玉の会は、日本の代表として昨年に続いて参加し、本部と東京支部、写真絵本「お手玉」の出版元文芸堂などの協力、愛媛県のご支援をいただいで、お手玉教室と、お手玉競技大会を担当しました。

会場のサッカー場を取り囲むように、アメリカ、イギリス、インドネシア、カ



▲ 文部大臣賞を目指して小学生の部の競技

ンボジア、エジプトなど海外二二の国と、日本代表の竹とんぼ、お手玉、石あて、なわとび、こまの5つの遊びが、それぞれテントを張って、「世界の野外伝承遊び教室」を開きました。

テントの中では、遊び道具の展示や説明が行われ、グラウンドでは綱引き、けんけん、ホッケーなど、各国の楽しい遊びが行われ、参加者は歓声をあげながら、輝く太陽の下で珍しい伝承遊びを楽しみました。遊びを通して、各国の人びとと交流し、国際交流を深めました。

サッカー場となりの公園では、「野外伝承遊び国際競技大会」として、竹とんぼとお手玉の競技大会が行われました。日本のお手玉の会は、お手玉の部門の審判を担当し、投げ玉式で、小学生の部、中学生の部、大人の部、親子の部の四種目を行いました。各種目の優勝者は、次のとおりです。

【小学生の部：優勝】

井原 兼吾（愛 媛）

【中学生の部：優勝】

杉本 麻美（東 京）

【一般の部：優勝】

小田原充宏（神奈川県）

【親子の部：優勝】

井原 和彦・兼吾（愛 媛）

遊びの国際会議も

野外伝承遊び国際大会前日の十一月四日には、国立オリンピック記念青少年総合センターで、第4回野外伝承遊び国際会議が行われ、各国の代表者が野外伝承遊びの意義と現状について話し合いました。

会議のあと、各国の代表者と参加者で交流会を行い、お互いに得意の遊びを紹介しながら、歓談し交流を深めました。

全国生涯学習まなびピア三重も大盛況

四日市市の「たいけんの小道」でお手玉教室



第十二回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア三重2000」が、文部省の主催で十一月一日から五日まで、津市を中心に三重県下七市六町村で開催されました。日本のお手玉の会は、四日市市で行われた「たいけんの小道」に、「世界と日本のお手玉を見て、作って、遊びましょう」のテーマで参加しました。

晴天にも恵まれ、たくさんの人出でにぎわいました。お手玉教室には、終日、お子さんからお年寄りまで、切れ目なく多くの人が参加してくれました。二日間、用意した四〇枚のベレットがすべてが一〇〇個のお手玉に変身し、参加者にお持ち帰りいただきました。

参加者のお手玉への関心は高く、世界と日本のお手玉を見ながら、たくさんのお問答がありました。また、熱心な方は、三重県に伝わる小石を使った、お手玉遊びを教えてくださいました。

全国生涯学習フェスティバルは、生涯学習に係る活動の場を全国的な規模で提供することにより、広く国民の一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図ることを目的としています。

神戸まつり・ちびっこワールドが、七月三十日（日）、メリケンパークで行われました。日本のお手玉の会は、神戸支部が中心となり、本部と神戶お手玉の会（徳島）の応援を得て参加しました。

行事は、テント内でのお手玉教室と、メリケンパーク特設ステージへの出演がありました。猛暑の中でしたが、たくさんのお手玉の作り方に、多くの大人や子どもさんが取り組みました。テント前での炎天下の遊び方の指導にも、たくさんのお手玉の作り方が挑戦しました。

また、特設ステージでは、優勝お手玉の会と神戸支部の皆さんによるお手玉演舞、参加者全員によるお手玉遊びの披露、チャンピオンの模範演技に、客席を埋めた観衆から大きな拍手をいただきました。また、前日の七月二十九日の夜は、神戸市須磨区の竜ヶ台地域福祉センターで、区民を対象としたお手玉教室を開きました。神戸支部の皆さんと本部のメンバーが、お手玉遊びと、お手玉作りの指導を行いました。

二〇名の参加者は、熱心な中にも、笑顔がいっぱいの表情で、楽しく受講しました。

炎天下で元気にお手玉遊び

神戸まつり・ちびっこワールドで



〔日本のお手玉の会の主な歩み〕 平成12年後半



▲ 盛大に行われた第5回熊本おじゃめ大会（7月22日）



▲ 第2回野外伝承遊び国際大会の交流会（11月4日）

- | | | |
|---------|---|------------|
| 6月1日 | 情報誌「おてだま」(NO.11)を発行 | |
| 8日 | 宇和島教育事務所愛媛長寿学園「お手玉教室」 | 宇和島市 |
| 13日 | 息茂公民館「お手玉教室」 | 長浜町 |
| 17日 | 角野小学校体育館：親子ふれあい会 | 新居浜 |
| 20日 | 第1回準備委員会
「第9回全国お手玉遊び大会」 | 本部 |
| 26日 | 第1回実行委員会
「第9回全国お手玉遊び大会」 | 本部 |
| 27日 | 今治「八恵苑」でお手玉教室 | 今治市 |
| 7月1日～2日 | 全国生涯学習まちづくりフォーラムin新居浜 | 新居浜市 |
| 5日 | 川東老人福祉センター 健康教室
「お手玉遊び大会」 | 新居浜市 |
| 7日 | ウィメンズプラザ
「夢はけっと祭・手づくり展」 | 新居浜市 |
| 14日 | 第1回 ルール委員会 | 本部 |
| 17日 | 田所自治会館「お手玉教室」 | 新居浜市 |
| 22日 | 益城町総合体育館
第5回熊本おじゃめ（お手玉）大会 | 熊本県 |
| 23日 | マイントピア別子
お祭りサミットinマイントピア別子 | 新居浜市 |
| 28日 | 銅夢にいほま少年少女合唱団 | 新居浜市 |
| 29日 | サイディエゴ・オテダマ・カイ 発足 | サンディエゴ市 |
| 30日 | 今治市総合福祉センター
（レクリエーション指導者養成講習会）
神戸まつり・ちびっ子ワールド | 今治市
神戸市 |
| 8月1日 | 小松町農村環境改善センター
平成12年度 愛幼研西条今治支部実技研修会 | 小松町 |
| 3日 | 宇和島教育事務所愛媛長寿学園「お手玉教室」 | 宇和島市 |
| 10日 | 新居浜少年少女合唱団 全国お手玉大会の指導 | 新居浜市 |
| 24日 | NHKラジオ「イブニングえひめ」 生放送出演 | |
| 26日 | 「第9回全国お手玉遊び大会」前夜祭 | 新居浜市 |
| 27日 | 第9回全国お手玉遊び大会 | 新居浜市 |
| 28日 | 第2回野外伝承遊び国際大会 打ち合わせ | 本部 |
| 9月2日 | 愛媛新聞取材「銅夢にいほま」 | 新居浜市 |
| 3日 | 第3回 全優石えひめストーンフェアin新居浜チャリティ祭 | 新居浜市 |
| 5日 | 角野保育園 | 新居浜市 |
| 6日 | 川東老人センター | 新居浜市 |
| 8日 | 土居町立東幼稚園「お手玉遊び」 | 土居町 |
| 13日 | みどり園保育所「お手玉遊び」 | 新居浜市 |
| 17日 | 愛媛レクリエーション大会 | 松山市 |
| 23日 | 読売新聞取材「今を語る」 | 本部 |
| 29日 | 中央児童センター「お手玉遊び」 | 新居浜市 |
| 10月10日 | 老人保健施設八恵苑「お手玉教室」 | 今治市 |
| 27日 | 松山市立小野中学校（文化祭準備） | 松山市 |
| 28日 | 第7回にいほまやんちゃKIDS2000～きて、みて、あそんで～お手玉教室 | 新居浜市 |
| 11月2日 | 八角園舎 “お手玉で遊ぼう” 実技指導 | 岡山県 |
| 3日～4日 | 第12回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア三重） | 四日市市 |
| 5日 | 若宮地区三世代交流会 | 新居浜市 |
| 5日 | 野外伝承遊び国際大会 | 東京都・代々木 |
| 12日 | 松山市立小野中学校 文化祭・ステージ発表 他 | 松山市 |
| | 豊茂ふるさとまつり お手玉大会 | 長浜町 |
| 16日～23日 | US-Japan Expo（17日～19日） | ロサンゼルス市 |

「サンディエゴ・オテダマカイ」が15番目・海外3つ目の支部として発足

日本のお手玉の会の15番目、海外3つ目の支部として、平成12年7月29日に「サンディエゴ・オテダマ・カイ」（ヒルマン愛子会長）が誕生しました。よろしくお願いたします。

このことは、8月10日付の「羅府新報」（ロサンゼルス市）で、「日本のお手玉の会の正式支部が発足。各地の文化祭などで伝統文化を紹介する」と、大きく取り上げられました。

第10回大会は9月9日(日)

21世紀最初の「全国お手玉遊び大会」

いよいよ21世紀を迎えます。平成4年にスタートした「全国お手玉遊び大会」は、たくさんの皆様のご支援、ご協力をいただき、来年、第10回目の節目を迎えます。この大会は、期せずして21世紀最初の大会となります。大会は平成13年9月9日(日)に、新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で開催します。

大会の内容につきましては、後日、発表いたしますが、節目の大会にふさわしい「メモリアル・イベント」にしたいと考えております。

どうか、ご期待をいただきますとともに多数のご参加をいただきますよう、お願い申し上げます。



第9回大会の風景。第10回大会は盛大に…

真鍋博顧問ご逝去

日本のお手玉の会顧問で、ラストレターの実鍋博様が、平成十二年十月三十一日、癌性リンパ管症のため亡くなられました。六八歳でした。

真鍋様は、新居浜市のご出



身で、日本のお手玉の会の前身の新居浜アメニティ倶楽部の特別会員であり、日本のお手玉の会の設立当初からの顧問でありました。

日本のお手玉の会の発足に当たって真鍋様は、「お手玉は、ご年配の方には懐かしい遊びとして、普及させることに大きな意義がある。また、子どもたちには、新しい遊びとして受け入れられるよう努力することが大切だ」と、ア

ドバイスをいただきました。また、真鍋様は、全国規模の情報誌に、「私のふるさとには、愛媛県新居浜市だが、いまお手玉遊びの普及活動をすすめており、全国お手玉遊び大会を開催したりしてまちおこしに努力している」と、PRもしてくださいました。

今後ご指導をいただきましたかったのですが、まことに残念です。これからも、お手玉遊びの普及活動に努力することを約束いたしました。心からご冥福をお祈りいたします。

次号の予告

初参加のシドニーなど

2月下旬に発行予定です

次号の「おてだま」No.13は、次のような内容を予定しています。発行予定は2月下旬です。ご期待ください。

- ・「ザ・祭りインシドニー」は大盛況
 - ・ロス支部の設立準備は着々と進む
 - ・サンディエゴ大学でお手玉教室
 - ・第10回全国お手玉遊び大会のご案内
 - ・第11回以降の大会についてのご提案
 - ・支部・会員からの「お便り」ほか
- 読者の皆様からのご投稿をお待ちしております。1月末日までに、原稿を事務局までお送りください。

「お手玉遊び競技・審判規則」できる

ご希望の方はお申し出ください

「お手玉遊び競技・審判規則」と「補則・お手玉遊びのきまり」(小学生用)ができました。ご希望の方は、事務局までお申し出ください。なお、コピー費と送料として3000円(切手可)をいただきますので、ご協力をお願いいたします。

あしがき

平成12年は、日本のお手玉の会にとってすばらしい飛躍の年になりました。

年初に、地域づくり団体自治大臣賞をいただき、11月には、文部大臣感謝状をいただきました。

また、海外では、サンディエゴ・オテダマ・カイの支部誕生、ロサンゼルス支部結成の足がかりができ、シドニーへの初遠征などがありました。

本年のご協力、ご支援に感謝申し上げます。来年もよろしくお願いたします。(の)



発行・編集

日本のお手玉の会 会報編集委員会

〒792-0811 愛媛県新居浜市庄内町 1-13-14

TEL・FAX/0897-36-0600

E-mail: tamachan@otedama.shikoku.ne.jp

ホームページ

http://www.shikoku.ne.jp/otedama/